

中国農村部における世代間のサポート関係

—孫育てからみる—

QIAO Xindi

〈研究の背景、目的、意義〉

中国発展研究財団が 2020 年発表した『中国発展報告 2020』によれば、中国における65歳以上の高齢者数は1.8億を超え、総人口に占める割合は13%となった。中国の場合、近年経済が飛躍的に成長を遂げたが、一人当たり GDP が低いため、先進諸国より「未富先老(豊かになる前に老いている)」という状況を直面しており、高齢社会対策の構築が今後の課題となる。

共稼ぎが普遍的になった中国では、祖父母が若い孫を世話することが一般化した。孫育ては中国高齢者の老後生活の中で大きな割合を占めるようになり、この参与は高齢者の生活の質に影響していると考えられている。しかし、これまでの孫—祖父母関係に関わる研究が児童発達に注目し、世話役の祖父母に対する研究、特に定量的研究が足りないと思う。

そのため、本研究では、孫を育てている高齢者を対象として、高齢者からみた孫の機能を再考し、孫育てが高齢者の心身に何を影響しているのかを定量化することを目的とする。高齢者の立場から、孫育てを観察し、孫の機能を定量していけば、高齢社会に進んでいる中国へ、高齢社会対策の構築に参考になれば本研究の意義と見なされる。

高齢者からみた孫育てにおいて潜在的なマイナス面を顕在化し、孫育てのニーズを把握できれば、幸福な老いの達成の条件を把握することと言えるであろう。

〈文献研究〉

孫—祖父母関係について、最も有名な理論として、高齢者にとって孫の存在が「自己の生命が途絶えても、精神が次世代に引き継がれる」という信頼を形成させ、最期への不安を緩和することであった(田畑ら, 1996)。

西洋での老親扶養は親世代が子世代を次々に扶養し続けていくの「リレー型」と異なり、中国での老親扶養は「フィードバック型」を表す。「フィードバック型」とは、親世代が子世代を育て、成年の子世代が親世代を扶養することである。こうした繰り返していく型が「フィードバック」を名づけられた

(劉ら2003;郭2017)。

中国で孫一祖父母関係について定量分析が少ないので、日本の研究を参考した。その後、田畑らは祖父母から見た孫の機能を尺度化し、「孫一祖父母関係評価尺度」を作成した。彼らは、祖父母にとって孫の機能を「時間的展望促進」「道具的・情緒的援助」「存在受容」「世代継承性促進」「日常的・情緒的援助」五つの因子を抽出した。文献調査を行った結果、祖父母からみた孫の機能として、家事援助、情緒援助、流行伝達、存在受容等があった。

〈量的調査〉

中国広西チワン族自治区の農村に在住する65歳以上の高齢者で、孫育ての経験者を対象とした。当地の南寧市衛生学校の教員の協力を得て、共同調査を行った。アルバイトのかたちで、当校の在学学生に向け、調査協力者を募集した。協力者は条件を満たす高齢者を探し、同意を得た上で調査を依頼した。原則として、高齢者が調査表を自筆したが、記入困難の場合、協力者で代筆した。記入完了の後で、協力者がデジタル化の調査表を作り上げ、送ってくれた。

調査項目は、基本属性、孫に関する項目、孫一祖父母関係評価尺度、老年期うつ病評価尺度、生活満足度尺度 K である。収集したデータは、統計ソフト SPSS 分析した。

祖父母からみた孫の機能は存在受容、フィードバック、日常的・情緒的援助、世代永続の象徴、人生回顧、経済的・情動的援助、共に6つの因子に分類された。信頼性係数は0.593-0.841であり、本尺度の信頼性が認められた。

主観的健康感において、およそ7割の高齢者は自分の体が健康と思う。うつ傾向(5点以上10点未満)がある高齢者は32.0%であり、うつ状態(10点以上)とされた高齢者が全体で4.8%を占めている。うつ状態の総計は36.8%であった。生活満足度については、9項目の平均得点は3.91±2.13(最小値:0、最大値:9)であった。

〈考察、まとめ、提言〉

調査によれば、孫育てを経験した高齢者は、実の健康状態と高齢者の自己認識の間に、ギャップがある。田畑らの研究が祖父母に対する孫の機能、肯定的側面を強調したが、今回の調査が、孫育てが高齢者への影響がプラス影響とマイナス影響との共存を示した。一部の因子が高齢者の主観的健康感にプラス影響を与える一方で、うつ状態と生活満足度へのマイナス影響も存じている。

孫の存在は血縁の引継ぎの象徴として、心の慰めのところになる。そのため、公的支援が高齢者のニーズの満足を目的とする上で、家族成員の互助の形成も支援すべきである。